

令和6年度 第3回 草津市スポーツ推進審議会 議事録

■日時：

令和6年10月17日（木）18時30分～20時20分

■場所：

市役所6階 教育委員会室

■出席委員：

岡本委員、小傳良委員、石井委員、柴原委員、中野委員、池田委員、稲田委員、吉野委員、板坂委員、庄司委員

■欠席委員：

なし

■事務局：

岸本教育部長、田中副部長
学校教育課 西田課長、中村主査
国スポ・障スポ推進室 岩城室長
スポーツ推進課 堀井課長、遠藤課長補佐、川越主査

■傍聴者：

0名

1 開会

【事務局】

皆様、こんばんは。教育部長の岸本です。今年度第3回目の草津市スポーツ推進審議会にご出席いただき、ありがとうございます。10月に入り、本市では数多くのスポーツイベント、大会を開催しているところであり、開催まで1年を来年開催の国スポに向けても、5競技のリハーサル大会を進行中です。本日は、第2期スポーツ推進計画に基づき、令和5年度の各事業を評価し、今後の計画策定に向けた準備を進めてまいります。委員の皆様のご忌憚なきご意見をお聞かせいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

2. 委員自己紹介

資料1

3. 議事

(1) 役員の選出について

【事務局】

資料2に基づき、草津市スポーツ推進審議会に関する条例について説明

- ▶役員選出 会長に岡本委員を選出
副会長に小傳良委員を選出

(2) 令和5年度草津市スポーツ推進計画の点検・評価結果について

事務局が、資料3-1、3-2に基づき説明。

【会長】

小学校の体育に関することであるが、女子の点数が全国平均を下回っている理由については、事務局ではどのように分析しておられるか。

【事務局】

小学校体力向上プロジェクトを開始する前の2015年時点では、県平均・全国平均を下回っていた。体力向上プロジェクトに取り組むことで、全国平均まで近づいたが、新型コロナウイルス感染症流行の影響で再び低下し、昨年度、再び全国平均に近づくことができた。体力向上プロジェクトで作成した、短時間運動プログラムと授業づくりについて、引き続き継続していくことで、これまで体力向上プロジェクトで上がってきた女子の体力についても向上が見込まれるものと考えている。

【委員】

先ほどの質問に関連して、女子の給食はどの程度なのか。100%食べてくれているのか。どの程度残しているのか。

【事務局】

小学校・中学校で残渣量の調査を行っているものの、小学校で約12%程度だったと思うが、残渣全体の量を量っているので、男女差については把握できていない。

【委員】

3、4年くらい前に、小学生の給食の塩分を少なくしているという話を聞いたことがあり、その成果が出たのかと思って聞いた。

【事務局】

減塩給食については、副会長おっしゃっていただいた通り、ずっと続けている。

減塩給食自体の目的が、体作りに関係する部分ではあるが、子どもの頃から減塩給食に慣れることによって、成人になっても塩分の少ない食事続け、成人病等を減らしていこうとい

う目的で実施し始めた経緯がある。当初の減塩給食の目的として、体力向上は掲げておらず、その点御理解いただきたい。

【会長】

資料 3-1 の二つ目の目標、「運動・スポーツが好きな子どもの割合」の結果が、女子の結果が全国平均を下回っていることについて、小学校現場として、どのように分析されているか。

【委員】

外遊びをすることが少なく、体を動かすことの楽しみをあまり感じていないのではないかと思う。今は男女関係なく、タブレットや読書などに興味を示す子が多いように感じている。「遊び」の部分でスポーツに繋がっていないように感じる。

【会長】

スポーツ少年団の実態について、後の議論とも重なってくると思うが、どのような状況なのか、事務局から簡単に御説明いただきたい。

【事務局】

子どもの数が少なくなっているということもあるが、スポーツ少年団だけでなく、クラブチームなど、多様な活動先を選択することもでき、スポーツ少年団の団数は減少傾向にあり、現時点で 22 団となっている。

指導者に対しても、有償の指導者資格の取得が義務付けられたことなどもあり、令和元年度には 36 団あったスポーツ少年団が、令和 2 年度から 3 年度にかけて激減し、現在 22 団となっている。

子どもの確保にも苦慮されているというお話は伺っており、なんとかここ 3 年間は 22 団をキープいただいている状況。

【会長】

では、基本方針 2「生涯スポーツ活動の推進」のアンケート結果について、体育振興会の関わりで、このあたりの数値をどのように感じておられるか。

【委員】

体育振興会としても、各地域によって、高齢化が進んでいたり、若いお子さん等が少なかったり、状況はまちまちであるが、運動会を実施されたり、ニュースポーツ大会に切り替えたりしておられる。それなりに取り組み方は変わってきてると思う。あとはチャレンジスポーツデーに参加するなど、色々取り組んではいるが、厳しい地区が多いように思う。

【会長】

総合型地域スポーツクラブの方で御尽力いただいております、高齢者のスポーツ実施率は維持できている状態であるが、御意見等いかがか。

【委員】

当スポーツクラブの会員は、子どもと、特に70歳代、80歳代以上高齢者の方に二極化している。現役時代の方たちの方が会員になるのは極端に少なく、ほとんどいない状態。先ほどのスポーツ少年団のことについて、スポーツ少年団そのものの数は少なくなる傾向にあるが、反対に有料のクラブチームが増えているので、子どものスポーツ参加率はそう変わっていないのではないかと認識している。

【会長】

スポーツ推進委員協議会として、感想等ございますでしょうか。

【委員】

ウォーキングに関して、コロナ前と比べると、参加人数が2割程度少なくなっているように感じる。ほかに、市内の各種団体から出前講座という形でニュースポーツを教えていただけないかという御依頼もいただき、対応している。

【会長】

スポーツの普及についてだが、事務局として新たな取組や、計画していることは何かあるか。

【事務局】

毎年高齢者向けの教室等や児童育成クラブなどで、スポーツ推進委員の方にニュースポーツを教えにいらっていることは一定数あり、口コミで広まってお声がけをいただいたりしている状況。そういったところに周知をしていき、広げていければと考えている。

【会長】

60代以降のスポーツ実施率は60%以上で、コロナ前は70%後半の時もあったが、これを維持できていることは一定の成果だと思っている。一方で、20歳代、30歳代、40歳代の数字が上がってきていない。担当課として、どのように分析されているのか。

【事務局】

非常に課題であると感じている。スポーツの分野に限らず、例えば健診の受診率など

においても、この年代の受診率の低さは課題になっている。自分自身のことよりも、子どものことや、仕事、介護などで忙しくされており、外に引っ張っていくことは難しい。

スポーツの実施率を上げていきたいという思いはあるが、日々忙しくされている中で一週間に 30 分以上運動に取り組んでもらうのはハードルが高いので、通勤など日常生活の中で取り組んでいただけるような、ウォーキングや体操など、日常に溶け込ませることのできるようなものを、他部門と連携しながら考えていきたいと思っている。

【会長】

もう一点、国スポが約 340 日後に開催されるが、国スポを応援するうえで、自分も運動をしてみようというムードをどのように作っていかうとされているか。

【委員】

チャレンジスポーツデーというイベントに取り組んでいる。地域や競技団体が主体となって、開催している。アスリートを育てる、というよりも、運動好きになってもらうというところから先に取り組まないといけない。20 歳代、30 歳代の方は「みるスポーツ」の方が好きな傾向にあり、自分でする、ということにはつながっていない。もう少し、大学生にも協力をいただきながら、チャレンジスポーツデーの取り組みにも力を入れていきたい。

【会長】

資料 3-2 の 8 ページ、チャレンジスポーツデーの項目について、「2」の評価になっており、もっと力を入れていかないといけない、という話であった。

【事務局】

色々な啓発活動は実施しているが、子どものころからスポーツに親しんでもらいたいという思いで、正式競技だとどちらかというと競技力向上に重きを置く形になるので、公開競技の「バウンドテニス」やデモンストレーション種目の「ノルディックウォーク」や「インディアカ」、「スポーツウェルネス吹き矢」など、学校訪問をして競技体験をしていただいたりしている。昨年度の実績では 9 校に 15 回訪問し、子どもたちに体験してもらった。

運動能力が求められる競技でなくとも、スポーツに親しめるということで、デモンストレーション種目を体験していただいている。

その他には、元プロ野球選手を招いて野球教室を開催したり、東レの選手に来ていただき、バレーボール教室を開催し、あこがれの選手に出会っていただく機会を提供するなどして、子どもも保護者も各種競技に興味を持っていただくようにしている。

観戦したり、ボランティアとして支えていただくなど、スポーツと関わっていただく

機会としている。

昨年度末だと、ボランティア登録者数は180人程度だったが、現時点では概ね400人になっている。ボランティアを増やし、その方を通じて啓発を進めていきたいと考えている。

【会長】

非常に貴重な御意見をいただいた。できたら、小学生にニュースポーツを紹介する際に、保護者とともに関わっていただける気運づくりを心掛けていただくと、もう少し数値も上がってくると思う。

【委員】

指導者が少ないことも問題である。学校の先生方も大変。

【事務局】

教職員の働き方改革にも取り組んでいる中で、部活動の在り方については、教育委員会の方で検討を進めているところである。そのうえで、教育委員会だけで決めるのではなく、最終的には、学校の先生方に指導者になっていただくことは限界があるため、例えばスポーツ協会さんや総合型地域スポーツクラブさんなどに受け皿的な役目をお願いしていくことも考えなくてはならない。

市としては、滋賀県全体で見ても比較的クラブチームが充実しており、子ども達が入会することもできるが、北部の方だと、クラブチームや指導者の数が少なく、地域移行という形で進めようとされているところもある。今後、市としてどういうあり方が良いのか、また、子ども達の体力の向上という点でも、部活動の在り方を検討していく中で、体力を維持していくのか、ということも考えていかななくてはならない時期に差し掛かっていると感じている。そういう意味で、スポーツ協会さんにも御協力をいただきながら進めてまいりたいと思っている。

【委員】

子どもの体力を向上させようと思うと、1校につき1人指導者をつけられると良いのではないか。

【事務局】

各校1名の配置をしたからといって、解決するわけではない。総合的に進めていく必要があると認識している。

【委員】

学校現場として、人を1人つけてもらったら嬉しいかと言われると、そんなことはない。その人をどう使うか、という方が大変。そもそも教員の業務がどんどん増えていく一方で、子どもたちがその犠牲になっている。体育が好きになるわけがない。業務が増えていくからといって、結局子どもに関わることを削っていて、本末転倒になっている。教員が子どもに関わる部活動の時間を確保することに対して努力しないと。他を削れ、部活も削れ、アンケートの結果を見ると、運動の嫌いな子どもが増えたとあり、当たり前だ、という感想。発想を変えないと、話にならないと思う。

教師の業務を増やしているのは結局国であり、子どもたちがその犠牲になっている。

【会長】

外部指導者を増やせば済むという話ではなく、また、指導者の管理についても役職のある先生方の御負担になってしまう。

外部指導者がいても、違う面で先生方の御負担が増えてしまうということも考えられる。そのあたりについては、教育委員会の方でも少し考えていただければと思う。

【事務局】

草津市モデルというか、草津市における部活動の在り方については、検討チームを作って取り組んでいるところ。今年末に外部の方を含めたチームの立ち上げを進めていこうとしている。

【会長】

委託を受けた側の質をどのように担保していくのか、という課題も出てくると思う。この辺りも踏まえ、「草津市モデル」の内容を考えていただければと思う。

続いて、基本方針3について、何か御意見等あるか。

【委員】

今年の県民スポーツ大会では、暫定ではあるが2位になる見込みである。

【会長】

それは、参加者が増加していったということか。

【委員】

強化選手がしっかり結果を残せるようになってきたのだと思う。

【会長】

市で競技力向上に取り組んで、オリンピック出場や、国際大会で活躍する選手を育てていくのは難しいと思う。市の方で、義務教育を受けてきた子どもたちが、高校生になって、「少年の部」でどこまで活躍していくのか、という点がポイントになってくると思う。現時点で、今後目覚ましい活躍をしそうな選手の情報は持っているのか。

【事務局】

具体的にどなたが、という所まではつかめていない。高校生だと、ターゲットエイジがまず決められて、3~5年くらい前からずっと強化をして、拠点校の高校に行き、そこで色々な市町の選手と一緒に強化されていく。なかなか切り分けて議論をしにくい内容でもある。

【会長】

13 ページの項目で、「国民体育大会に向けた選手の発掘・育成」の部分であるが、やはり、全国大会規模になってくると、市では難しい。次期計画の策定の際には考えていけないといけないのではないかと思う。中体連がどういうレベルを目指していくのか等の内容に変えていった方が良くと思う。

大学生の部活動で、中学生に普及活動をしたり、何か取り組んでおられることはあるか。

【委員】

養護学校に、週2回選手を1名派遣して、バスケットボールを教える活動は行っている。12月には、中学校1クラスにバスケットボールを教えに行く予定である。

【会長】

草津市にすばらしいプールができあがったが、水泳部として、自分たちだけの競技力向上ではなく、競技の普及や、地域貢献型の取組等、何か考えておられることはあるか。

【委員】

水泳部として、コロナ禍以降に地域と交流することはなかったが、主将が変わり、地域と連携していこうという風に考えている。

【会長】

可能であれば、スポーツ協会さんともそういった情報共有をいただきながら、スポーツ協会の冠をつけながら進めるということでも良いかと思う。

続いて、「スポーツ環境の充実」のところで、行政の中で、施設利用にあたってルー

ルを明確にしなければならないとか、そういったことはあるか。

大学生も施設を利用させていただいていることはあると思うが、どのような状況であるか。

【事務局】

学校体育施設開放事業において、学生さんから一般の団体さんまで、御利用いただいております、なにか問題がある度に市から注意をさせていただいている。

また、今年度、1年間をかけて市内小中学校に空調が設置される。利用上の注意点等の運用面について検討しているが、今後、使い方の問題等、懸念事項は色々出てくると思っている。

社会体育施設については、今のところ大きな問題は耳に入っていないが、これまで御利用いただいたことのない競技で、体育館を利用できないか、という御相談をいただくことはあり、一つ一つ、聞き取りをしながら、可能な限り色々なスポーツでお使いいただけるよう、進めているところである。

【会長】

今の話に関連して、障害者スポーツの方で、車いすバスケットなどの種目を進めていくときに、転倒した時にフロアを傷めてしまうので、大学の体育館では車いすバスケットでは使えないようになっている。種目によっては、そういったことも出てくるのではないかと思う。もう一点、施設のオンライン予約の件は、指定管理者の更新の時期に、条件等は示されていくのか。

【事務局】

具体的な内容を盛り込んでいくかは今後の検討になってまいります。次の指定管理者の更新が令和8年度になることから、その選定の時期に合わせて関係各所と調整しながら検討していくことになる。

【会長】

学校体育施設開放事業において、問題だと思うことは何かあるか。

【委員】

学校開放で利用された翌日に、ゴミが放置されていることがある。都度連絡し、注意をしていただいているが、それを繰り返している状況。

【会長】

施設を利用するにあたってのマナーの徹底について、使用者に徹底させるというのも

課題として出てくると思う。バスケットボールではどうか。

【委員】

試合会場に行くときにごみを捨てない、ということを徹底している。応援席やベンチにゴミが残っているということはないようにしており、他の学校に行った時も、そういったことはないはず。

【委員】

社会体育施設の利用者数についてだが、スポーツをするために施設利用される方と、プロスポーツを観戦される方とを合わせて計上されていると思うが、比率はどの程度か。イベントを開催するとたくさんの方が計上されることになるし、イベントに来る人ばかり増えていくかもしれない。スポーツのための利用と、それ以外で分けてカウントしてはどうか。そうでないと、本当にスポーツをする人が増えたのか、判断を誤ってしまうのではないか、と思う。

【事務局】

その点については、利用人数の確認は利用される申請者からの申し出人数で計上している。

今後については、令和8年度の指定管理者の募集の段階で、今後分析がより簡単な計上の仕方について取り入れることができるのか、また確認をしながら進めていきたいと思う。

【会長】

水泳についてお尋ねするが、学生連盟は、草津市立プールを使っていこうという風に思っているのか。

【委員】

まだ検討中の段階であるが、大学水泳部として、草津市で週に1回練習するのはどうか、という案が出ている。

【会長】

プロスポーツのイベントなど、そういった大規模なイベントの際に、30歳台や40歳台の現役世代に、スポーツをやろうという気持ちになっていただけるよう、啓発活動に力を入れていただきたい。他府県、他市町から来られた方に対して、草津市の魅力を発信することができるように考えていただければと思う。

今回、佐賀県で行われていた国スポでは、ある会場はのぼりすら立っておらず、入口

が分からないようなところもあった。国スポを行ううえで、「草津」という町を知って帰っていただけるよう、取り組んでいただければ。市町によっておもてなしに差があった。来られた方から、「いい街だ」と思って帰っていただけると良いと思う。

【事務局】

草津では、企業さんも協力的で、協賛で駅前の装飾をしていただくことができています。これから、草津駅の西口、南草津駅に装飾をするのに、協賛をお願いしているところ。

国スポのリハーサル大会が終わってからもプールは積極的に使っていていただき、ナショナルチームやジュニアオリンピックの会場とされていたりする。多くの大会でプールを使ってもらい、市内で食事や宿泊をしていただければ一番良いと思っている。国スポがその契機になるよう、来年度、再来年度により加速していけるよう、取り組んでいこうと思っている。

【委員】

地域に対する宣伝が行き届いていないように感じる。啓発の仕方について、検討してほしい。

【事務局】

承知した。昨年度だと、広報くさつや民間の冊子など、色々なところに広告を掲載していた。広告が目につく世代と、そうでない世代もある。

協賛でいただいたファイルに試合情報を書いて配ったり、学校の授業で説明し、保護者の方にも伝わるように取り組んできた。

今後は地域の方にさらに啓発していくことのできるよう、考えていきたいと思う。

【会長】

試合を応援する、支援するという形で参加していただき、その後、自分自身もやってみようという意識が高まれば良いと思う。イベントだけを上手くやり終えた、とするだけでなく、市民一人一人が「スポーツをやってみよう」と思うよう仕掛けを考えていただければ。

佐賀の会場では、地域の方がおもてなしをされているところがあった。郷土料理をふるまっておられ、中でも支援学校の生徒さんと一緒におもてなしのブースを作っておられたのが良かった。担当者に聞くと、次の障スポ大会につなげていきたいという思いを持っているとのことだった。

また、スポーツをする上で、怪我はつきものであり、必ず起こるもの。スポーツ医学の面でのあり方などについても、今後考えていけると良い。

【事務局】

資料 4 に基づき説明

【会長】

20 歳代から 40 歳代のスポーツ実施率について、上げていかないといけない。実施率を上げていくためにはどうしたらいいのか、皆さんが関わっておられる方の御意見等についても教えていただきながら、議論していけると良い。

～閉会～